

2026 年 9 月 2 日三島市立西小学校 4 年生・グラウンドワーク 三島「環境出前講座」

源兵衛川再生の軌跡―市民・行政・企業連携と「議論よりアクション」

概要

本講義は、グラウンドワーク三島専務理事であるジャンボ氏が、静岡県三島市の源兵衛川が汚染された状態から市民の力で再生された歴史と背景を、三島市立西小学校 4 年生に説明したものである。

かつて市民は川にごみを捨て、行政は問題解決に消極的で、企業は利益追求のみという三者がバラバラに行動した結果、川は汚染され枯渇した。

行政が川をコンクリートで埋め立てようとした計画に対し、渡辺氏が中心となり「グラウンドワーク三島」を設立。イギリスのグラウンドワーク運動を参考に、15 億円の予算を活用しながら、反対運動と清掃活動を展開した。

当初は誰からも理解されなかったが、ほぼ一人で 3 年間ゴミ拾いを続けた経験や、多くの市民を巻き込んで川を再生させた事例を通じて「議論よりアクション」を掲げ、スコップを持って、現場で行動すること、諦めずにやり続けることの重要性を熱く説く。

そして、一人ひとりの小さな行動が、地域全体に大きな影響を与えることを強調し、子どもたちに身近なことから環境保全に参加することを促す。

知識ポイント

1. 源兵衛川の歴史と変化

- 豊かな自然と循環型の暮らし（過去）

- 昭和 40 年代頃まで、三島の小学校にはプールがなく、子供たちは源兵衛川などで泳いでいた。当時の川の水温は 13 度と冷たく、自然の厳しさと怖さも併せ持っていた。
- 昔の源兵衛川沿いの料亭では、客の食べ残しを川の鯉に与え、その鯉を再び客に提供するという無駄のない食物連鎖・循環が成立していた。
- 江戸時代の日本では、排泄物を発酵させて肥料として農業に利用する文化があり、廃棄物を資源として活用する循環型社会が実現していた。
- 汚染と枯渇（昭和後期～平成初期）
 - 1991 年頃、源兵衛川は生活排水の流入によりヘドロが溜まり、悪臭を放つ、汚れた状態になった。
 - 川の水量が減少した原因は複合的である。上流域の宅地開発で田んぼが減り保水機能が失われたこと、人口増加や工場による大規模な地下水の汲み上げ（合計で 1 日 100 万トン）などが重なった結果、下流の三島から水が消えた。
 - 当時の市民は、この汚く、恥ずかしい源兵衛川をコンクリートで埋めて駐車場にする計画を立てていた。

2. グラウンドワーク三島の活動と源兵衛川の再生

- 活動理念と哲学
 - **市民・行政・企業の三者連携:** バラバラだった三者の「調整」と「仲介」を行い、協力して知恵を出し合う関係を築くことを目指した。
 - **「議論よりアクション」:** 会議だけでなく、スコップを手に持って、現場でゴミ拾いなどの具体的な行動を起こすことを重視。
 - **「右手にスコップ・左手に缶ビール」**を掲げ、行動後の楽しみも大切にしている。
 - **諦めずにやり続けること:** 渡辺氏は、源兵衛川をコンクリートで埋める計画に反対するため「グラウンドワーク三島」を設立。
 - 計画阻止後、ほぼ一人で 3 年間ゴミ拾いを続けた。当初は批判されたが、1 年 7 ヶ月目に初めて市民から応援された経験を機に支援の輪が広がった。
- 再生への具体的な取り組みと成果

- 渡辺氏が静岡県庁在籍時に確保した 15 億円の予算を活用し、イギリスのグラウンドワーク運動を参考にプロジェクトを主導。
- 自ら描いた絵で夢を提示し、多くの市民をボランティア活動に巻き込んだ。
- 市民の協力のもと、ミシマバイカモの植え付けや、事故で流れたコンクリートを雑巾で拭き取るなどの地道な作業を実施した。
- こうした活動の結果、荒廃した源兵衛川は美しく再生され、ホタルの生息数は調査開始時の 1,232 匹から 3,364 匹へと大幅に増加した。
- グラウンドワーク三島は 34 年間で市内約 75 カ所の環境再生を実施。各所（点）を道や川で結び、街全体をきれいにしてきた。

3. 源兵衛川の価値と現代への教訓

- **世界遺産としての価値:** 多くの人々の努力の結晶である源兵衛川は、世界で唯一 2 つの世界遺産に登録されている。
- **現代社会への提言:**
 - 現代では、生ごみを水分を含んだまま焼却するのに年間約 8 億円の燃料費がかかるが、各家庭で乾燥させてから捨てれば年間 3 億円以上節約できる可能性がある。
 - 一人ひとりの小さな行動（生ごみを干す、落ちているゴミを拾うなど）が、社会全体で大きな節約や環境負荷の低減に繋がる。

課題

1. 家庭で生ごみを捨てる際に、新聞紙の上で 1 日干して乾燥させてから捨てることを試みる。
2. 自分が何かを変えたいと思った時、「議論よりアクション」を心がけ、まず小さな一歩を踏み出してみる。
3. 配布された資料の地図を見ながら源兵衛川を歩き、各所の歴史について学び、安全な範囲で落ちているゴミを拾ってみる。